

文部科学大臣賞の受賞にあたって

内藤 陽子

この度は、文部科学大臣賞という身に余る賞を頂きまして、大変ありがとうございます。最初に電話で連絡を頂いたときは、「スペイン語検定一級の合格通知受け取られましたよね？」と聞かれ、即座に「もしかしたら、合格通知は間違いで、実は不合格でした、という連絡かも！？」と思ったくらいでした。

ふと思えば、私がスペイン語を本格的に学ぶようになって、かれこれ15年の月日が過ぎていました。私はこの15年の間に、ボリビアとメキシコという2つの偉大な国に住まわせてもらい、その他にもキューバ、ペルー、チリ、アルゼンチン、ウルグアイ、ニカラグアなど、スペイン語圏の国々をたくさん旅しました。スペイン語は私の世界を広げ、私に自由を与えてくれたように思います。スペイン語で生活することで、自分が自分らしくいられる感覚がありました。

2019年5月、足掛け12年となるラテンアメリカでの暮らしを終え、日本に帰国。人生の新たなステージを模索する前向きな帰国でしたが、間もなくコロナ禍が訪れます。旧友を訪ねることもできなければ、新しい友達を作ることもできない。閉塞感を感じながら、ふと思い立って受験したのが、今回のスペイン語検定でした。久しぶりの試験勉強や試験当日の緊張感など、どれも新鮮に心地よく感じ、結果が合格だろうと不合格だろうと、それだけで閉塞感に風穴を開けるくらいの効果があったように思います。その後、合格通知を受け取り、それでもう十二分に満足していたところ、いただいたのが冒頭の文部科学大臣賞受賞のお知らせでした。

仕事と育児の両立に終わった直近の7-8年、私の履歴書の資格欄には何の更新もありませんでした。自分の人生が進歩していないようにも感じられ、残念に思っていました。そういう意味でも、今回の合格および受賞のお知らせは、私のこれからの人生の大きな励みになります。今回このような名誉ある賞を頂きましたが、自分のスペイン語力がまだまだであることは、私自身が一番よく知っており、この賞に相応しい力を身に付けられるよう、引き続き努力したいと思います。

この度は、どうもありがとうございました。